芹沢文学読書会

案内通信
No. 182
2026年10月26日(月)
(令和8年)

台風(たいふう)が
またまた来(き)たり
大雨(おおあめ)か…
松林庵主人

10月便り

暑い夏が、10月まで続き、秋にならず、台風30号が南から東方へ曲がって日本列島に来るとか。秋雨前線も異常です。海水温も上昇して、異常気象になっているのは地球温暖化の結果なので、人類は地球には住めなくなってしまうのが心配です。北極の氷が溶け、海面が高くなって、沈んでいく島も増えています。ネパールでは氷河が溶けて大土石流で数千人の犠牲者が出ています。各国では大雨で河川が氾濫し、山火事も起こって大被害です。内乱やテロで、多くの難民が国を追われ、先進国への移民も大きな問題になっています。

ところが、独裁者の国では、簡単に戦争を始めます。そこでも多くの犠牲者が出ているのです。21世紀には戦争は出来ないと思っていたら、独裁者は平気で侵略や戦争で多くの人々を殺しています。ＩＣＣ(国際刑事裁判所)が必要です。独裁者や殺人者は許せない……。

元気にお過ごしのことと思います。涼しい秋となります。読書会にお出掛け下さい。

第182回・芹沢文学読書会 ☞ ❑

①日時; **11月8日(日)** 午前１０時～１２時［＊平城は第２日曜日午前です］

②会場; **大分県立図書館 研修室 No. 5** ［＊平常は研修室No.5です］

③内容; 〔Ⅰ〕芹沢文学に関する話題や情報 10:00～10:10 am 自由に話す。

〔Ⅱ〕**芹沢文学読書会** 10:10～12:00 am ♩ ♪ ♫ ♬

○テキスト **『人生について 結婚について』芹沢光治良作**(昭和42年5月25日**新潮社**発行)

第一章若い人々へ ―続きの三篇― **30～47頁**

「母は心に宿っていない」「理想の母となるために」「地位や出世を忘れて」

◇『人生について 結婚について』は**昭和42年5月25日に新潮社から発行されました。**第一章若い人々へ、第二章結婚について、第三章幸福について、**第四章には自伝「私の青春時代」が集録されています。**

＝次回は、来年の**1月10日**(第2日曜日)午前の予定です。＝

◎同封資料; 評論**「芹沢光治良・人生と文学 ＝作家生活五十年間の足跡と文学的評価＝」**と**「芹沢文学・読書案内」** **小串信正** 昭和60年11月24日**芹沢光治良文学愛好会発行の同人文集『こころの窓』**(月例会開催100回記念号) 40～42、46と45頁。＊この文は、昭和55(1980)年5月4日の芹沢先生の誕生日に作家生活50周年記念に作成した「作家 芹沢光治良 年譜」の中に添えたものです。筆名林寛仁として書いたもので、これが私の芹沢光治良論の本格的な出発であったのです。参考資料として「芹沢文学・読書案内」と共に今回の同封資料とします。御一読下さい。

芹沢文学・大分友の会 ✍ ✉ ☺ ♨

連絡先： 〒872-1651 大分県国東市国東町浜4765(番地) 小串信正方

☎ ０９７８(７７)０５６５ 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会

芹沢文学・大分友の会
会　報　No.181
ふ　じ
令和 8(2026)年 10 月 26 日(月)
編集・文責　小串(おぐし) 信正(のぶまさ)

☆第 181 回・芹沢文学読書会の報告　於　大分県立図書館・研修室No.5　♩ ♪ ♫ ♬

9 月 13 日(日)に第 181 回の芹沢文学読書会が、大分県立図書館の研修室No.5 で行われました。参加者は少ないですが、熱心に読書会を行いました。今回から、新テキスト**『人生について・結婚について』**(新潮社発行)を読み始めました。「第一章　若い人々へ―断章七編」の「独りで考える習慣を」「友情を忘れた寂しい青春」「〝砂漠〟の仲の学生たち」「サラリーマン道への反省」を読み語りました。フランスに留学した娘たちのことも語り、声楽を専門にした三女からの便りを楽しみ、芹沢先生も多くの便りを書いて励ましたようです。日本の大学では、「大学がサラリーマン養成所」になっていることを心配しています。29 頁まで進みました。次回はこの続きを読みかたります。**次回は涼しい秋になっていると思いますので、どうぞお出掛け下さい。**

○令和 8(2026)年度の年会費の納入をお願いします。振替や持参で。　✌ ✈ ✪ ✡

9 月から新年度になりました。年会費の納入をお願いいたします。読書会に参加の方は、読書会に持参して下さい。他の方は同封の郵便振替払込取扱票にて納入して下さい。

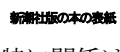
＊振替の年会費納入の確認が出来なくなっているので、同封の年会費入金報告用紙に、入金月日・金額・氏名を書いて、同封の封筒(切手は貼っています)**に入れて、御面倒ですが返送して下さい。**この報告書が届かないと、納入したことが分かりません。

寄付も受入れますが、無理をされないように。**芹沢文学研究会の会員の方で、芹沢文学・大分友の会にも入会いただいている方々にも会員の継続をお願いいたします。**

【芹沢文学案内 No.126】新潮社の日本文学全集 27 のこと　◇ ♣ ♤ ♡

芹沢光治良は、多くの作品を新潮社から出版しています。『芹澤光治良作品集』(全 16 巻)を刊行し、大河小説『人間の運命』(全 16 巻)や最晩年の連作『神と人間』(全 8 巻)も新潮社から刊行されました。没後に編集された『芹沢光治良文学館』(全 12 巻)も新潮社から出版されたのです。

今回は、**新潮社から出版された日本文学全集 27 の『中山義秀・芹沢光治良』**を紹介します。昭和 44(1969)年 10 月 30 日に発行されました。この文学全集は全 40 巻で、たまたま 27 に、中山義秀と対で収録されたのです。特に関係はないのです。一人で一巻に収録されなかったのは文学的な評価であるかは不明です。芹沢光治良の作品は長編小説**『愛と知と悲しみと』**の一作のみです。**巻末に「注解」「年譜」と瀬沼茂樹の「解説」が収録されています。**奥付に、発行者/佐藤亮一 東京都新宿区矢来町 71　発行所/株式会社・新潮社　等が枠の中に印刷されています。きっちりとした箱に入れられている。


新潮社版の本の表紙

長編小説『愛と知と悲しみと』は、書下ろしで書かれ、昭和 36(1961)年 12 月　日に新潮社から出版されたものです。瀬沼茂樹の「解説」には、芹沢光治良を大学で経済学を学び、官吏となり、パリに留学し結核に罹って闘病し作家の道を目指すことになった経歴から「この作家が文学に独自の領域をひらいた」と評価し、「とくにフランス文学に直接に学ぶところの多かったこと」、「フランス的明快さを身につけるようになっ[た]」と紹介し、**「自伝的要素をふくみながら、政治を越えた人生の根本義に国際的視野で考察をめぐらした佳作というべきものである。」と評価**しています。これを入手するのは難しいでしょうが、図書館にはあります。